

# JECK JICA Experts' Conference of Kanagawa JICA帰国専門家連絡会かながわ

## 第31号

### JECK2018年度 上期活動ニュース

#### 平成30年度JECK総会開催(2018.04.25)

4月28日JICA横浜国際センター4Fセミナールーム6&7に、来賓としてJICA横浜国際センター殿川宏康次長の臨席を頂き、平成30年度JECK総会を開催した。

殿川次長からご祝辞を頂いた後議事に入り、平成29年度事業報告、同収支決算報告、役員の一部退任及び新任、監査報告、平成30年度事業計画、同収支予算が承認された。

総会終了後、中之園賢治JECKA理事長からJECKAの活動状況報告が報告された。



会場

#### 関東学院大学受託授業 「国際協力の現場平成」開講(2018.09.24)

4年目を迎えた関東学院大学受託授業「国際協力の現場」は、9月24日のJICA横浜センター市民参加協力課長石亀敬治氏の「開発途上国の原状と政府開発援助(ODA)」の講演で開講した。(関連記事P4)



殿川次長祝辞

#### 2018年度KIP会総会出席(2018.06.08)

JECKが会員として参加しているKIP会総会に、福田理事長、大平事務局長、松田理事が出席した。平成29年度事業報告、同収支決算書、平成30年度事業計画、同収支予算等の議案が承認された。続いて、黒岩知事が「健康・未病産業の創出とベトナムとの経済交流について」と題して講演した。

引き続き行われた親睦会では、名刺交換を通じて、参加者にJECKのアクティビティを紹介した。

#### JECK主催英会話教室開講(2018.05.08)

国際協力の第一歩ともいえる英会話を「米澤メソッド」による「大人の思い出し英会話」として、JECK主催で5月8日に横浜市市民活動支援センターで開講した。初回の参加者は4名で当初目標を下回ったがその後増加し、最多8名となっている。(関連記事P5)



会員総会



講演する黒岩知事



#### 2018年度夏季フォーラム開催(2018.08.25)

恒例の夏季フォーラムを「JECKの将来像」をテーマとして、8月25日にJICA横浜センターで開催した。

JICA横浜センター市民参加協力課長石亀啓治課長から祝辞を頂き、横浜国立大学大学院山崎圭一教授、フェリス学院大学杉之原真子准教授、横浜市青葉国際交流ラウンジ五十川元理事長、三氏のご臨席を仰ぎ、パネラーフロアーから活発な提案があり、活発な討論が行われた。懇談会の席上でも、提案されたテーマについて、和やかなうちにも真剣な討議がなされた。(関連記事P2)



会場風景

#### JECK会報30号配布(2018.05.01)

JECK30号が刷了し、JICA本・支部、各県JICA帰国専門家連絡会、県庁関係部門、関係団体・個人、JECK会員に配布した。PDFファイルをJECKホームページの「会報」にアップロードした。

# 2018年度夏季フォーラム【JECKの将来像について】開催(2018.08.25)

恒例の夏季フォーラムを、「JECKの将来像」をテーマとして、8月25日にJICA横浜センターで開催した。

JICA横浜センター市民参加協力課石亀啓治課長から祝辞を頂き、横浜国立大学大学院山崎圭一教授、フェリス女学院大学杉之原真子准教授、横浜市青葉国際交流ラウンジ五十川元理事長、三氏のご臨席を仰ぎ、パネラーからの提案、フロアを含めての活発な討論が行われた。懇談会の席上でも、提案されたテーマについて、和やかなうちにも真剣な討議がなされた。



## パネラーからの提案(敬称略、発言順)

### JECK会員が集まり易くする方策 植岡 龍太郎

会報やインターネット、メールなどのメディアを通じ提供される情報をもとに、四季折々の会合で直接の意見交換をしあっているが、会員がひとりでも一回でも多く参加できる機会を作るための方策について考えたい。

また、JECKの活性化と会員同志の親和感を増す一つの手段として、会員名簿に本人写真と趣味、特技、JECKを通じてしたいこと、今話しておきたいことを簡単に掲載することを提案する。

### JECKのために何ができますか? 大平 一昭

国外で活躍する機会を期待してJECKに参加した会員も少なくないと思うが、現実には機会は少ない。期待と現実の乖離に戸惑う会員もいると思う。J.F.ケネディの就任演説の響で「JECKが何をしてくれるのではなく、自分がJECKの為に何が出来るかを問うてもらいたい。」を提案する。第一歩として、会員にJECK行事への参画、会報、ホームページへの原稿寄稿、企画・意見の提案をお願いする。

### JECK会員のポテンシャルを生かした新規活動案 北島 博司

1. 神奈川県招聘海外技術研修員推薦及び受け入れの実績を生かして、大幅に拡大する外国人労働者を人手不足に悩む中小企業とのマッチングの助けをする。これは法人会員の獲得にもつながる。
2. 中小企業の製品・技術の輸出・海外展開の橋渡し JICA/中小企業・SDGs ビジネス支援事業 JICS/J・Partner 法人会員獲得にもつながる。
3. 助成金申請(単年度だけですが)JECKの活動資金として、かながわ国際交流財団、かながわボランティア活動推進基金21などの助成金を申請する。

### 実行可能な新規事業展開の議論を 鈴木 良實

JECKに入会したばかりであり、会の詳細については十分な把握していない。一般論として述べると会員数の増加と新規事業展開に関して実行可能な具体的な議論が必要と考える。

### 国際協力の普及啓発活動におけるJECKの役割(関東学院大学経済学部提供講義、「国際協力の現場」の総括を通して。)

中泉 拓也

1. 学生は、国際協力の重要性について十分理解できた。特に我が国の予算を使っても国際協力をすべきである理由を考えようとしている点は大きい。
2. JECK自身がSDGsについても十分貢献できていることがわかる。
3. これらより、より体系的な科目としても対応可能。

### 日本と世界各国の間でのビジネス創出の支援を通じた、民間ベースの国際協力の模索 小林 一

川崎市を基盤に、日亜ビジネスの起業を支援してきたNPO法人アジア起業家村推進機構、一般社団法人アジアサイエンスカフェ及び周辺には多くの外国人起業家、インパウンドで日本でのビジネス展開を目指す外国人が集まっており、彼らのビジネス展開にJECK会員の経験、ノウハウを活かし、適切なアドバイス等を行う。また、海外進出や日亜ビジネス展開を考える地域の中小企業の相談にも応じる。

### 収益を向上増加させる分野での活動の提案 福田 信一郎

JECKの活動を更に積極的に推進していくために、活動資金を確保する必要がある。これを実現するために、会員が持つ海外活動で得た経験と知識を活かし、中小企業の海外展開支援事業に参入し収益を向上させる活動を展開すべきである。JECKはJICAの中小企業海外展開事業に参入の為、既に神奈川県中小企業診断協会と共同でJICAに登録済であり、JICAの担当部門と密接に接触し情報を収集しプロジェクトの実現へと繋げる。更に会員である神奈川県産業振興センター(KIP)を活用し、海外展開に興味がある県内の会員企業を単独、或はKIPのコンサル部門と組んで掘り起こしビジネスへ繋げる。これらの活動を実行し易くするために、JECKを馴染みやすい名称に変更する。

### JICA横浜センター市民参加協力課 課長 石亀 敬治

帰国専門家は、開発途上国のよき理解者であり、JICA事業において貴重な存在。大学での講座実施などJECK設立後継続して国際協力の現場の経験を発信する役割を担っていただいていることに感謝。神奈川県における国際協力事業の推進に引き続き貢献することを期待。



### 横浜国立大学大学院国際社会科学研究院 教授 山崎 圭一

横浜国立大学の学生大西さんの発言で始まった横浜国立大学でのJECKによる「国際協力に関する講座」は、学生にとって非常に魅力的であった。財源の問題などもあったが、機会があれば再開したい。講座では、国際協力の実際を知ることが必要で、使用データの年代などを気にしない。



### フェリス女学院大学国際交流学部 准教授 杉之原 真子

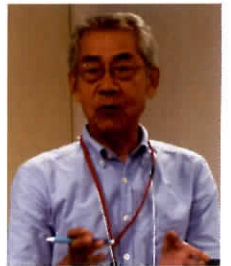
学生にとって、国際協力の現場の話は、有用で興味深い。秋の授業に期待している。

注 杉之原先生の授業「国際交流への招待」の1コマを頂き、11月28日に内倉副理事長が講義する予定。



### 横浜市青葉国際交流の会 理事長 五十川 元

国際交流には、外国人に気軽に声を掛ける緩い感触が重要と思う。高齢者だけが出来る緩い活動もある。JECK会員による専門分野に限らない海外経験の話を書くことにより、「青葉国際交流の会」などでの外国人支援および国際理解の促進強化することが可能である。



### その他

1. 来年度JECK講座開講予定の明治学院大学国際学部国際学科主任教授・土屋博嗣先生と担当の准教授・頼俊輔先生にご出席をお願いしたが、学内行事と重なり、残念ながら出席できないとの連絡を頂いた。
2. JECKの活動活性化のためには、会員の若返りとNPO法人化が必要。
3. 外国人の視点で日本を見る必要がある。
4. 若手農業経験者を会員に取り込みたい。

ここに記載した貴重な提案と意見は理事会で検討し、有用な提案については、小委員会を結成し、実現への方策を模索する。

私にとって中東は欧州の文化・眼鏡を透しての理解でした。これを打ち砕いたのはJICAからの直接派遣の結果です。其れでも理解を深めるにはRobert Irwinの書Islamic-Artを読む必要がありました。

個人的暮らし向きと繋がる“縁の果て”とは何処か。それは“支那”と云う大きな文化圏に阻まれつつも、理解したつもりでいる、中央アジアではないでしょうか。

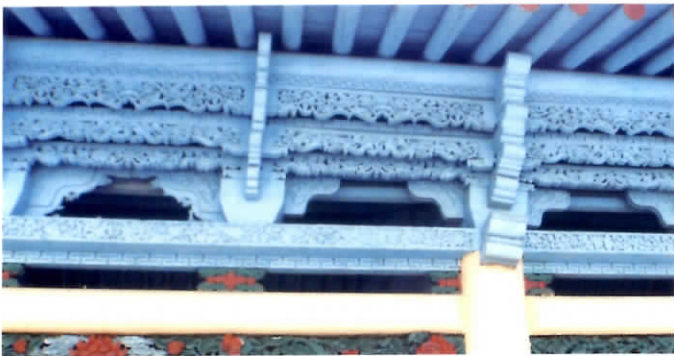
全盲の歌姫グルムさんの応援で、キルギス旅行の機会が訪れました。

天山山脈群の西側に包含される彼の地は、気流より地形が気候を支配しています。奔流する水の豊かな一方、山脈一つ隔てて激しい乾燥地をもたらし、土質・礫層の違いから、その場その場で山の安息角が違ふ姿に釘づけの造山活動の激しい地域でした。イシクク湖岸に“カラコル市”があります。軽井沢の様な明媚な風景、べたべたの牛糞が路地いっばいに広がり、野犬に追い立てられる穏やかな都市です。長野とでも姉妹都市を結び、豊かな果樹を品種改良しロシアへ輸出。直行便が開通すればと夢も膨らみます。

此処に紹介したい2つの教会があります。

1つは漢民族でイスラム教に帰依し2~3百年前から中国の支配を逃れ住み着いた、“ドンガン族”の人々により建てられた木造のモスク寺院です。

これまで中東やイランで見て来た石を素材に刻まれたイスラミックな文様とは違ふ、木に刻まれた漢族らしい精緻な木工の日本の寺院にも通じる文様です。

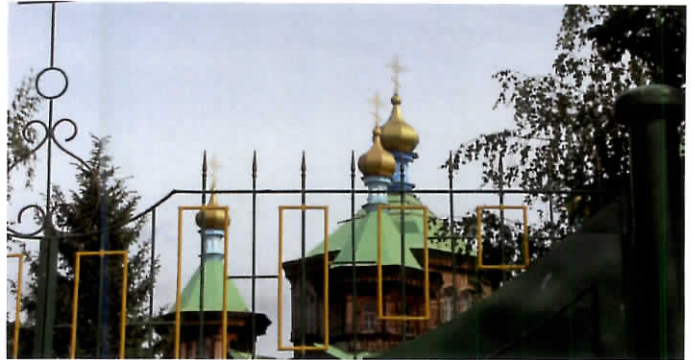


カラコル ドンガンモスク軒先



ドンガンモスク内陣

他方は、ロシアより植民しながら此の地を深く愛しここを墳墓と定めた三位一体系の聖堂です。此れも木造建築です。精緻ではありませんがトルコに三位一体系の小さなレンガの教会がありましたが、これと対比して、木造の穏やかな美しさを備えていました。

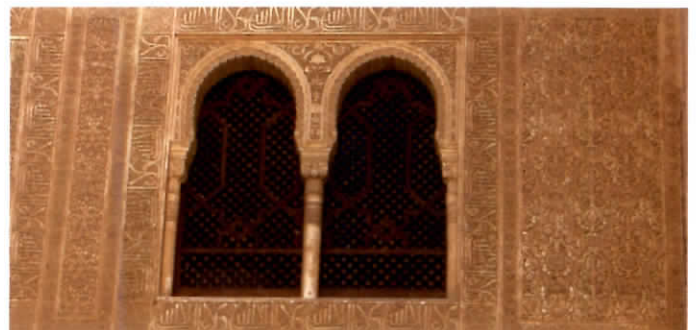


カラコル 木造の聖堂

(此の教会は写真撮影ができませんので、戸外からの写真です。インターネットで、キルギス・カラコル Holy Trinity Cathedralで検索してご覧ください。)



グラナダ アルハンブラ 内庭軒先



パティオの壁



トルコ 聖母教会

## 1.はじめに

1982年に「Look East Policy(東方政策)」を提唱したマレーシアのマハティール氏が再び首相に就任し、マレーシアを立て直そうと次々と打ち出す斬新な政策に対して国民も期待している。2011年から始められたMJIITのプロジェクトは2018年5月に第1フェーズ(7年間)を修了し、7月より5年間の第2フェーズに入った。会報19号(2012年10月発行)に「MJIITとその教育」と題して、日本がマレーシアと共同で創設した「マレーシア日本国際工科院(Malaysia-Japan International Institute of Technology)」の工学教育について紹介してから6年が経過し、卒業生も世界各国で活躍している。今回はその成果と今後について述べる。

## 2.教育研究の現状と成果

MJIITは独立した大学ではなく、マレーシア工科大学(Universiti Teknologi Malaysia(UTM))の1つの学部としてクアラルンプールキャンパスに設置され、6学科で構成されている。学士プログラムは3コース、大学院プログラムは学習型(修士)、学習・研究型など9コースが設けられている。日本では、大学院修士は、学習・研究型であるが、UTMでは学習型で学位が取れるコースも設けられている。

教育は、KES(Knowledge-Experience- Self-directed learning)の理念を基に、専門力・企画力に加えて人間力の3要素をスキルとした革新性と創造性に富む、実践的かつ最先端の高い技術開発・研究能力と労働倫理を有する人材を育成することを目的としている。カリキュラムでは、i-Kohza(革新的講座)制を導入し、先輩一後輩の関係を基にした学習・研究指導体制、5Sと改善を育む体制を構築している。更に、人間力を育む教科を各学年に配置し、英語を公用語として日本の大学コンソーシアム(Japanese University Consortium: JUC)と協力・連携したプログラムが実施されている。JUCのメンバーは29大学・研究所及び政府機関、団体・企業から構成されている。

教育の質を保証するために、マレーシア高等教育省のMQA(Malaysian Qualifications Agency)、WA(Washington Accord)のマレーシア版であるEAC(Engineering Accreditation Council)の下にカリキュラムが構築され、OBE(Outcome Based Education)に基づいて教育が実施されている。OBEを採用している日本の大学は少ない。

1つ目の成果としては教育の充実と質の向上及び卒業生の活躍である。表1に2018年1月現在の学生数及び卒業生数を示す。表2は教員数であり、日本人教員数は2013年時より10名ほど減少している。一方、志願者の数や学力は上昇し、MJIITの人気が出てきている。卒業生については就職者の25%ほどが日系企業に就職し、その過半数がマレーシア国内、残りは日本やアセアン地域で活躍し、好評である。また、日本との学生交換留学のプログラムも充実し、日本へ留学した学生数は開校以来500名、日本からは約200名に及んでいる(写真1)。また、学生による各種のイベント等も行われ、大学として充実してきた。

	学生	卒業生		教員数
学部	783	365	マレーシア	67
大学院	455	167	日本	13
計	1238	532	その他	2



研究室(Analytical, Advanced Precision, Microscopy and Nanofabrication Laboratories)には、最新の各種の装置が設置され、学内外からの共同利用が可能となっている。例えば、Microscopy Lab.にはショットキー電界放出形走査電子顕微鏡(FESEM)(分解(最大)0.8nm、倍率(最大)百万倍)(写真2)、Dual Beam装置(集束イオンビームと走査型電子顕微鏡を組み合わせた)等を装備している。Nanofab. Lab.にはクリーンルーム内の電子線描画装置やドライブプロセス装置などを備え、製造、処理、計測などが行える。

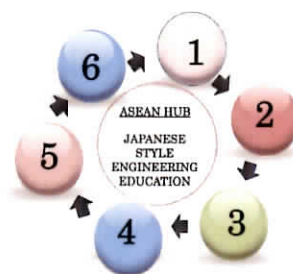


## 3.新たな展開

第2フェーズに入り、MJIITは図1、表3に示す6項目のイニシアティブを新院長の下で発揮していくとしている。例えば、高砂熟工業との産学連携研究室(表3の2)はMJIIT最初のものである。学部には4番目の「サイバー情報科学プログラム」が誕生し、大学院には、筑波大学との共同プログラムとして「持続可能性と環境科学」が誕生した。このコースはMJIITと筑波大学にそれぞれ1年間在籍した上で学位を取るもので、学習型と研究型のコースがある、ユニークなプログラムである。

2017年に、マレーシア政府は学術研究村をクアラルンプールとジョホールの中間のPagohにオープンした。MJIITは、この1角にUTMが整備した施設の1つをMJIIT Pagoh先端技術センターとした(写真3)。今後、廃棄物、防災関連の研究が進められる予定である。

MJIIT内にJASTIP(Japan-ASEAN Science, Technology and Innovation Platform) Disaster Prevention Joint Laboratoryを防災サテライト拠点として設け、ASEAN湿潤変動帯における巨大災害に対する総合防災科学研究の実施とASEAN広域波及災害に対する早期警戒システムを構築、京都大学・防災科学研究所と共に進めている。その他に山口大学、東京都市大学等との研究協力が強化される。そして、2018年にはi-Kohza数が30を超えそうで、教育と研究活動は更に活発になると思われる。



	イニシアティブ
1	日本式工学教育 ASEAN 拠点
2	産学連携研究室
3	寄附講座
4	Premier Training & Technology Transfer Platform
5	Joint R&D (MJIIT-JUC・産業界)
6	Global Mobility Programs (Jukebox concept, etc)

図1 第2フェーズ イニシアティブ 表3 MJIITのイニシアティブ

## 4.終りに

世界大学ランキングにおいてUTMは2013年の294位から2018年には253位に躍進している。これはMJIITのこれまでの教育・研究活動が世界的にも評価されたことによるところが大きいと考えられる。これからの5年間で、日本式工学教育がマレーシアの教育研究体制と融合し実を結び、アセアンの拠点として揺ぎ無い地位を築いてくれることを期待したい。日本の高校生の入学をも期待したい。

表1 学生数及び卒業生数 表2 教員数 写真1 単位交換プログラム

2つ目の成果は研究設備の充実と研究活動の活発化である。i-Kohza数は13から19に増え、設備も充実し、日本式研究指導体制も浸透し、研究成果も当初の150%に伸びている。また、4つのサービス

\*わかばやし・としお JECK理事、東海大学名誉教授、元MJIIT教授 専門分野:管理工学、通信工学 任地:タイ、ラオス、マレーシア

# 開講4年目を迎えた「国際協力の現場」

JECK副理事長 内倉和雄\*

関東学院大学経済学部及び経営学部の共同開講講義科目「国際協力の現場」は、平成27年度に始めて開講されてから本年で4年目を迎え、秋学期の30年9月24日から開講することになりました。

JECKは、横浜国立大学経済学部の正規授業として平成21～23年度の足かけ3年に亘る特殊講義「日本の国際協力」が実施されました。その時の積み重ねた経験・実績が評価された結果、関東学院大学における本講義科目の受託につながったものと考えています。

また、本講義科目の開講が4年目を迎えることができたのは、講義を担当された方々の開発途上国での活動実績に加えて、講義に対する純粋な使命感と熱い情熱が学生に伝わり理解さ

れたことから、本講義が学生に好評で、開講初年時から毎年受講生が増え続けて平成29年度には、約170名の学生が受講しました。それに加えて、大学からも高い評価を頂きました。このような背景から、4年目を迎えられたと受け止めています。

本年度は、講義担当者15名のうち5名の方が初めて担当されることになりました。その結果、講義の分野にも更に広がり認められ、「国際協力の現場」としてより充実したものになったと思っています。

次年度の開講については、未定であります但し継続5年目を迎えることが出来るように対応したいと思います。更に、今回の関東学院大学における実績がJECKの次の教育事業に繋がることを期待しています。

平成30年度「国際協力の現場」日程表

回数	実施日	担当者	テーマ
1	9月24日	石亀 敬治	開発途上国の現状と政府開発援助(ODA)
2	10月 1日	植岡 龍太郎	水産物と国際協力(水産資源開発の現場から)
3	10月 8日	中之園 賢治	開発途上国における地球環境(森林・土壌)に関する国際協力
4	10月15日	菊池 正夫	日本の技術ポテンシャルを生かした物づくり分野の国際協力
5	10月22日	塚田 源一郎	インドネシアの廃棄物分野を中心とした環境分野における国際協力
6	10月29日	上田 恵一	水は国の血流、中東ヨルダンの体験
7	11月12日	鈴木 良實	科学日本語教育および化学物質の安全管理に関する国際協力
8	11月19日	石井 信行	病院管理へのトヨタ品質管理手法適用
9	11月26日	倉内 伸幸	国際協力における教員と学生のチャレンジ
10	12月 3日	北島 博司	病院プロジェクトから見えてくる国際協力の現場とその変遷ー容認できない医療(経済)格差を埋めるためにー
11	12月10日	吉田 博至	中東地域における職業と経済活動を考える(電気・電子分野)
12	12月17日	内倉 和雄	開発途上国における医薬品の安全性確保に関する国際協力
13	12月24日	田中 秀幸	途上国の発展とODAの現状についてー太平洋諸国域とアフリカの現状を窺ってー
14	1月 7日	加藤 博通	財務管理を中心とした中小企業の経営改善
15	1月21日	福田 信一郎	欧州復興開発銀行(EBRD)市場経済移行支援プログラムによる中央アジアの民間企業の市場経済移行支援業務に従事して

\*うちくら・かずお JECK副理事長 関東学院大学受託業務推進委員会委員長 専門分野:医薬品検査、環境評価 任国:中国

# 国際協力の第一歩! 英会話教室をJECK主催でスタート

JECK理事 吉田博至\*

2020年の東京オリンピック控え、英会話可能人口を増やすことは喫緊の課題であります。JECK主催で一般市民に寄り添った英語教育は国際協力の第一歩であり、JICAおよびJECKの底辺を支える活動として認知度向上にも繋がり意義深いものと思います。

今年度、東京杉並区で2007年より実施中のNPO法人児童英語教育振興会の協賛を得て、JECK主催で横浜桜木町近くの横浜市民活動支援センター(グリーンセンター4階)で本年5月8日より、「大人の想いだし英会話教室」をスタートしました。この教育内容は同教育振興会が吟味、熟成したもので「米澤メソッド」という動詞を主体として実践会話が早期に可能となる特色ある手法を採用しています。つまり従来の「読む、書く、聞く、話す」の順番を変えて、「聞く、話す、読む、書く」の順で英語が楽しく身につく方法で、特に「大人の想いだし英会話」では「聞く、話す」に重点を置きます。東京では杉並区を中心に既に7クラスが開講していて、横浜は8番目の開講となります。横浜では萩原豊子先生(JECK会員)が毎週火曜日10時から講師を担当、受講生は現在7

名、少人数制としていますが、受講生が増えれば、さらに1クラス増やすことを考えています。11月からはSTEP2として追加募集する予定で現在、準備を進めています。



さらに、「国際協力の第一歩」を旗印として今後、横浜各地区、神奈川各地域に「米澤メソッド英会話教室」を拡大していく考えであります。各地区担当の先生候補(講師養成講座受講が必要)の募集、各地区の受講生募集が今後の課題となります。JECK会員、関係各位におかれましては、講師募集、受講生募集に是非ともご協力をお願いいたします。

\*よしだ・ひろし JECK理事 専門分野:コンピュータ、電子工学 任地:エジプト、ヨルダン

## なぜアルゼンチンタンゴなの？

JECK理事 小泉由紀子\*

それは、教わってみようかというチャンスが到来したからです。

セラピーでは80歳代90歳代も踊っていると云うわけで、友人の合気道指導者の田村晶子さんが自分の誕生日に合わせて御子息にサプライズで踊って見せたのです。リベルタンゴを一曲。アメリカからご子息夫婦がお祝いに駆けつけたのですが見事に踊り切りました。大成功です。短期間で習得して見事でした。

彼女が言うには、アルゼンチンタンゴと合気道の動きは似ていると。確かにリズムは違いますが動きは、そのように感じます。

そこで私もやってみようかと始めました。社交ダンスを少々たしなんでいたのですがステップは踏めるのではないかと。呑み込みは悪いのですがそこは図々しく。

月2回、半年が経過しました。先生はアルゼンチン出身のDiego Malvicino。彼はプロのギタリストですがダンスに目覚めてダンサーにもなったような方です。

日本人のダンサーの奥様とはアルゼンチンで出会い結婚し、7年前に来日したそうです。子供は二人目



が生まれるところですが早く会いたいと嬉しそうに言っています。

彼のダンスは容姿端麗で見栄えが良く、その上、教え上手です。サークルのメンバーも徐々に増えていて10名弱になりつつあります。

レッスンは第一、第三月曜日と第二、第四木曜日の午後には横浜市中区のスポーツセンターで練習しています。

Tango hugというグループを前述の晶子さんが立ち上げ私はTango Barとして「Meetup」という交流サイトで月1回開催します。コンセプトは老若男女に集っていただき、見るも踊るも一杯飲みながら楽しい一時を過ごしていただくことを願っています。

ご興味は沸いてきたら是非ご参加ください。お待ち申し上げております。



\*こいずみゆきこ JECK理事 専門分野:国際コーディネーション

## アルゼンチンタンゴに魅せられて

JECK事務局長 大平一昭\*

筆者は、1954年9月27日、高校の北海道修学旅行の最終地函館にいた。前日の台風15号の暴風と高波で、洞爺丸が沈没し、市街は騒然としていた。その時に、函館の喫茶店で偶然に聞いたアルゼンチンタンゴのエル・ウラカン(颶風)が耳に残っている。筆者は、クラシックも軽音楽も聞かぬが、アルゼンチンタンゴ(以下タンゴと省略する)に思い入れがあるのは、このような記憶が関係しているのかもしれない。

タンゴは、ブエノスアイレスのボカ地区の貧しい労働者や娼婦の間から生まれた。最初は下品な音楽とされていたが、パリで流行してアルゼンチンに逆輸入され上流社会にも受け入れられるようになった。

日本人は、タンゴ好きと言われている。バンドネオンがスタックカートでリズムを刻み、その上をバイオリンが物悲しく甘美なメロディーを奏する。これが日本人の琴線に触れるのではないかと思う。

日本では、戦前から「奥様お手をどうぞ」、「狂乱のモンテカルロ」のようなコンチネンタル・タンゴが主流で、国産の「並木の雨」、「小さな喫茶店」、「赤い靴のタンゴ」、「団子3兄弟」もこの系統と言える。

戦後1950~1960年代に、オルケスタ・ティピカ東京、オルケスタティピカ・ポルテニア、東京六重奏団(コンチネンタル)等のバンドが結成され、オスワルド・プグリエセ、フランシスコ・カナロなどの大御所も来日しブームとなった。

一方で、早川晋平、藤沢嵐子、利根研二がアルゼンチンに演奏旅行し、エバ・ペロンの追悼コンサートに出演しアルゼンチンで絶大な人気を得た。この様子は「藤沢嵐子アワー」としてラジオ東京から放送され、筆者も夢中になって聞いた覚えがある。

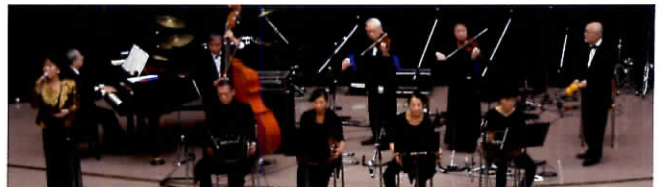
1971年にオルケスタ・ティピカ・東京が、解散したころから日

本のタンゴも衰退期に入る。

1980年代後半になると、米国で成功した「タンゴ・アルヘンティノ」が公演され、ブエノスアイレスで開催された第7回タンゴダンス世界選手権のサロン部門で山尾洋史・恭子夫妻が優勝し、ダンスとしてのアルゼンチンタンゴが注目されるようになった。タンゴは聴くだけでなく、見る、踊る楽しみも加わった。

筆者は、ファン・ダリエンソ、フランシスコ・カナロ等の古典派(ガルディア・ビエハ)を好み、アニバル・トロイロ、アストール・ピアソラのようなモダン派は苦手だった。ピアソラのリベルタンゴは、ヨーヨー・マのチェロ演奏が好きだった。浅田真央、鈴木明子その他多数のフィギュア選手がこの曲で演技している。

最近では、タンゴの生演奏を聴くのは、年一回の連合三田祭でOBによるBRBタンゴアンサンブルぐらいになってしまったが、JECK会員の北島さんの著作「ロストタブレット」を読んで、インターネットのYouTubeでタンゴを聞いたり、ダンスを見たりする楽しさを見つけた。



慶應BRBタンゴアンサンブル

ダンスとしてのアルゼンチンタンゴは、小泉さんの例のように習う人が増えたと聞いている。これが引き金となり日本でアルゼンチンタンゴ人気ができることを望んでいる。

\*おおひらかずあき JECK事務局長 専門分野:包装技術 JICA任地:サウジアラビア JICA以外の任地:アメリカ、スイス

### JICA帰国専門家連絡会かながわ会報 第31号

【発行】2018年10月1日 【発行者】JICA帰国専門家連絡会かながわ(JECK) 【編集委員会】福田 信一郎(編集責任) 大平 一昭 佐藤 満寿哉 小泉 由紀子  
【事務局】横浜市中区新港2-3-1 JICA横浜国際センター3F URL : <http://www.jeck.jp/> 事務局長 大平 一昭 e-mail:ohira\_k@hotmail.co.jp  
【印刷】横浜リテラ 横浜市戸塚区上矢部町1965-4 URL : <http://www.yokohamalitera.com/> e-mail : info@yokohamalitera.co.jp